

第68回 令和7年8月22日（金）

みなさん充実した夏休みを過ごせましたか？夏休み中に陸上部、弓道部のインターハイや室内楽部の全国大会出場がありました。ハンド部では1名国体に選抜されました。スカッシュで国際的に活躍する選手や動物の研究で文部科学大臣に表敬する方もおり、枚挙にいとまがありません。川和高校生徒の皆さんの大活躍はうれしい限りです。

休業前に野球やサッカーの公式戦を観戦し、休業中は吹奏楽部の地区大会と県大会を観に行きました。9月以降も皆さんの活躍を楽しみにしています。

「よく「昔はよかった」という言葉を聞きます。アトラクションでは昭和の街並みを懐かしむような展示が大人気です。それでは本当に昔はよかったのでしょうか。」

私が生まれる前、ちょうど最初の東京オリンピックのころ、高度経済成長期で日本の景気は右肩上がりに良くなっていました。いまは「失われた30年」と言われるように、1900年代末にバブルがはじけてから本当の意味で経済が立ち直っているとは言い難い状況です。

それでも当時は「3C」と呼ばれて大流行したのが「クーラー、カラーテレビ、車（Car）」でした。当たり前ですが性能はいまよりはるかに劣りますし、テレビはコンテンツも少なく、そして車はまだまだ「ぜいたく品」でした。

さらにこのころは「働き方改革」なんて夢のまた夢。休みは取れないし、終電で帰って始発で出勤はざらで、会社に泊まり込むサラリーマンも多かった時代です。

子育ては女性におしつけるような家父長的価値観も強く、女性の地位向上も遅っていましたし、体罰などの誤った教育も普通にありました。私もそれで育ちましたし部活中は水を飲んではいけない時代でした。

どう考えても今のはうが絶対いいと思うのですが、それでも昔を美化する風潮はなぜ無くならないのでしょうか。私は理由の一つに「比較」があると思います。

どんなに辛いことがあっても、いまのようにテレビやネットがない時代なので他の人がどんな暮らしをしているのか、比較することが難しかった。いま幸運なのか不幸なのか、自分が判断するしかなかった。だから「幸せ」だと思えば「幸せ」だったわけです。

現代はどうでしょう。本当は「幸せ」なのにSNSではもっと人生を楽しんでいる人がいる。（これも真実かどうかはわかりません。）それと「比較」して自分は「不幸」だと思ってしまう。

逆に「不幸」な人を見て、この人に比べれば自分は「幸せ」だと思う。このような「比較」で生まれた「幸せ」は一瞬で崩れ去る脆いものです。

崩れない「幸せ」は自分の中の「ものさし」で決めた「幸せ」です。「比較」ではなく自分が何に対してどのように満足するかを大切にします。

みなさんに自分の「ものさし」を持てるようになってほしいと思います。